

機械と人間

愛甲次郎

医療、宇宙、産業利用の各方面に於て最近の科學技術の發展の速度は遠く人事の及ぶところに非ず。此までも電子計算機は研究活動の欠くべからざる補助者なりしが、近年計算機、研究活動の主體を擔ふに至りて、研究活動自体の速度も人間の頭腦固有の速度よりも計算機の速度に依存する時代となれるに非ずや。

科學技術の發達の加速現象につきては余ソニーに奉職せるころより秘かに憂ふところありき。當時放送機器分野に於てソニー断然先頭に立ちたるも競争の激化は避けられず、知的財産權擔當の役員として特許出願の量について一抹の不安を抱けり。社内の事情を聞けば、出願の要なる審査請求に係る書類を作成し得る技術者は特定の人材に限られ、それはシステム開發の中樞にあつてその時間を確保することは至難の業なりと。最先端の放送システムの全貌、細部を熟知するは僅か一二名にして余人を以て代難き存在なる由。かかる事情は獨り放送機器の分野のみならず、細分化せる科學技術のあらゆる分野にてあり得ることなれば、人類の機械文明は累卵の危ふきにありと當時思へるなり。

計算機と人間の能力の比較に於て世人の耳目を^{そばだ}欽てたるは囲碁将棋の超一流棋士と計算機との對戦なりき。この戦に於ける計算機の勝利は、世人をして高度の知能經驗を要する職業もいづれ所謂AIに奪はるる時代來たるべしと豫感せしめたり。

テレビの報ずる所によれば、ロボットに関する開發研究は世界各地の大學、研究所、企業等にて進められ、その個々の研究成果を逐一追ふことすら容易ならず。實際の人体機能に一層接近するための研究盛んにして、例へば指紋を採用することにより皮膚感覺を向上せしめんとする研究、既にカリフォルニアの一大學にて行はるる由。運動、思考等の能力に加へて、ロボットに感情、意思の能力も備へしめんとする試みもありと聞く。さすればいづれロボットは人間と殆ど変りなき存在となりぬべし。

かかるロボットは例へば火星探索の不可缺の手段となるべし。假に酸素の存在せざる大氣の中にて極寒に堪へ放射線を物ともせず飲食ひもせぬ人間存せば、かほど重寶なるものはなし。人間と何ら異ならざるロボットに寄せらるる期待限りなし。されどその反面、感情、意思を有するのみならず痛み苦しみを解するロボット、やがてその expendable なる待遇に不満を抱き人間に反抗せんとするとき人間側に如何なる用意ありや。運動、思考に關する彼等の超人的能力を思へばロボットを最終的に支配するは殆ど不能と言ふべし。

ロボットの外觀・能力ともに人間と分別しがたく相似るに至る一方、人間のサイボーグ化の傾向も次第に顯著となる。ナノレベルの電子裝置を頭の中に埋め込み、海馬と接續することにより記憶力を飛躍的に向上せしむることも、今や神經生理學やナノテクノロジーの發展により可能なりと聞く。

かかる狀況に至らばビジネス戰略上費用に重きを置く企業の判斷として、人間よりロボットの採用を優先するは明らかなり。従つて社会を揺がす雇用問題の發生は覺悟せざるべからず。かかる問題は世の經濟學者の能く解くところならむや。あらゆる點に於て人間に等しきロボットを唯機械なりとの理由を以て、人として扱はず物として扱ふは新時代の奴隸を生むことに他ならず、人類の第二奴隸制の時代に入ることの意味す。既成宗教にとりても未曾有の深刻なる問題なり。「神の前に人とロボットは相同じか」、「ロボットに仏性ありや」。吾人は萬一將來人間とロボット、決定的に對立するとき、神は

人間の側に立ち給ふと信ずる者なり。されど手遅れとなる前に論議を盡すべきには非ずや。米國においては生物学的人間のやがて機械的人間により置換せらるべき時の到來を豫見する識者少なからず。人類文明の畫期的變動なるべし。現在系外知的生命體の搜索漸く盛んなれども、發見に成功するとも多くの生命體は機械の段階に移行済みの可能性高かるべし。

吾人幸運なれば聊か生き永らへて、自らの意識を全て計算機に上掲することを得て、永遠の命を得る事も可なるべし。計算機に移りたる吾人はかかる世迷言を如何に思ふらむ。

（平成三十年八月一日受附）